

明治十四年十月十二日
勅諭

○明治十四年十月十二日
勅諭

○明治十四年十月十二日
勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ
解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙
ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫經クヘキノ業ヲ
為サンコトヲ期ス、嚮ニ、明治八年ニ元老院ヲ設
ケ、十一年ニ府縣會ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ
創メ、序ニ循テ歩ク進ムルノ道ニ由ルニ非ルハ
莫シ、尔有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン

顧ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事
業、實ニ輕挙ニ便ナラス、我祖我宗、照臨シテ上ニ
在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模護ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、断シ
テ之ヲ行フ、責朕カ躬ニアリ、將ニ明治二十三年
ヲ期シ、讒負ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ
成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時日ヲ以
テシ、經畫ノ責ニ当ラシム、其組織權限ニ至テハ、
朕親ラ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラント
ス、朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ
競フ、浮言相動カシ、竟ニ大計ヲ遺ル、是宜シク今

ニ及テ、謨訓ヲ明徴シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘ
シ、若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ争ヒ、事變ヲ煽シ、國
安ヲ害スル者アラハ、処スルニ國典ヲ以テスヘ
シ、特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス